

星の感激を育てる活動

飯塚高輝(竜のおとし子星の会)

竜のおとし子星の会では、天文に関する情報交換、技術研修、開発研究、遠征観測などの企画、聴覚障害者や地域手話サークルへの天文普及活動を行っている。天体観望会(サークル観望会)、新天文手話講座、天文講演などには、これまで、大勢の方にご参加いただいた。これらは星の感激を育てることを目的とした、天文普及活動である。

1. 星の感激を育てる活動

昔のろう学校(口話教育時代)での理科の授業で、天文・宇宙分野を習得しえなかった聴覚障害者は『星に興味はない』『神秘的な天体現象を知らない』と思っている。竜のおとし子星の会では、星に興味がある聴覚障害者が集まり、情報交換、遠征観測などを行ってきたが、星の感激を育てることを意識しなかったため、活動の広がりには限りがあった。その後開催した天体観望会(サークル観望会)、皆既日食観測隊、遠征観測隊、新天文手話講座などには、これまで大勢の方にご参加いただいた。これらは『星の感激を育てる』ことを目的とした、聴覚障害者への天文普及活動である。

2. 神秘的な天体?! 不思議な感動

当会のホームページでは“神秘的な天体?! 不思議な感動”として、聴覚障害者と手話を学ぶ健聴者たちに、天体写真ギャラリー、活動内容、望遠鏡の選び方(光学性能の知識)、活動報告などの情報を伝えている。これは『星の感激を育てる活動』と似ている。

写真で見ることと肉眼で見ることは違う。例えば、皆既日食の写真は美しくないが、海外へ遠征観測に行き、肉眼で見る皆既日食の放射状コロナは非常に美しく感じる。また逆に、例えば、星空をただ見上げても特別なものは見えないが、撮影すると、星の色や天体の姿が美しく感じられる。星に興味のない聴覚障害者に『神秘的な天体?! 不思議な感動』を伝えることが大切で、もし伝えないと「本当に天体は神秘的で美しく、感動するものなのか？」と半信半疑になってしまう。

3. 星の感激を育てる活動は三ツ葉である

(1) 手話

各地手話サークルでは、天文・宇宙に関する新しい手話を習うことはないが、当会が地域手話サークルや聴覚障害者協会などに天文手話教室や天文講演会、天体観望会を行うことで、新しい天文に関する手話を習得することができる。

(2) 現象

天体観望会の前に、自分の目で見ると天体は宇宙図鑑や写真とは全く違うとの説明をしてから実際に見てもらう。サークル観望会や遠征観測隊で、望遠鏡や双眼鏡で神秘的な天体現象(惑星の美しさ、ぼんやりした天体など)を観望する。

(3) 写真

当会では聴覚障害者や手話を学ぶ健聴者が集まり、撮った天体写真を交換したりする。福祉大会や障害者交流会などで聴覚障害者の天体写真展を行った時、聴覚障害者や手話サークルの方々がその天体写真の美しさを見合っていた。

(1) 手話(天文手話) + (2) 現象(天体観望) + (3) 写真(天体写真を見合う)は、星の感激を育てる可能性がある。

4. 天体観望会

聴覚障害者がいる地域手話サークルから、私設の天体観測所での天体観望会を依頼された。21センチメートルの反射式望遠鏡で土星、木星、アンドロメダ大銀河、二重星団などを観望し、感激していただいた。星に興味がなかった聴覚障害者が『星の感激』に気づいた。また、手話を学ぶ健聴者からは「うわ〜っ、ほんと」などの声があった。回を重ねるごとに参加者がどんどん増えていった。来年からは地域手話サークルによる天体観望会を企画する予定である。

5. 新天文手話講座

京都大学の嶺重先生と視覚障害者の藤原晴美さんが参加して下さった。新天文手話講座では、通常手話とは全く違い、天体現象のイメージそのままの手話表現を学ぶこととなり、「とてもおもしろかった」の声があがった。残念だが、手話通訳者派遣費の予算の関係で続けることが難しい。今後は地域手話サークルによる新天文手話教室を開催していきたいと思う。

6. 天体写真技術研修会

情報保障不足等コミュニケーション障害のため、天体写真や画像処理の技術習得が難しく、美しい天体写真の成功率が低い。そのため、技術の習得と向上を目的とする、手話を使っの技術研修会を開催していく。この研修会で、美しい天体写真の撮影成功率が高まることで、聴覚障害者への天文普及活動ができる。

参考文献

[1] 竜のおとし子星の会ホームページ <http://www16.ocn.ne.jp/~chyoten>